

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	鹿児島県指定 第4670300575号
法人名	有限会社 カリヤ
事業所名	グループホーム 愛
訪問調査日	平成 22 年 2 月 18 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 20 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



○項目番号について  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第 4670300575号		
法人名	有限会社 カリヤ		
事業所名	グループホーム 愛		
所在地	鹿児島県 鹿屋市 下高隈町 5039番地 8 (電 話) 0994-40-6100		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 星ヶ峯四丁目 2番6号		
訪問調査日	平成22年2月18日	評価確定日	平成22年3月20日

## 【情報提供票より】 (平成21年2月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 6月 11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤12人	非常勤8人 常勤換算15.3人

### (2) 建物概要

建物構造	一部鉄骨 木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	30,000
敷金	有(円)		無
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

### (4) 利用者の概要(12月30日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.4歳	最低	70歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人井之上病院 池田病院 大隅鹿屋病院 坂元歯科クリニック
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームに隣接する広大な敷地には野菜畑と鶏舎があり、無農薬の野菜や新鮮な卵など安全な食材を提供している。600坪の芝生の中庭は地域に開放し、地域住民がグランドゴルフをしたり、入居者も散歩やお茶会で、自由に出入りできる環境となっている。併設の通所介護事業所と合同で、敬老会やカラオケ大会・みかん狩りも行い、交流を図っている。運営者は、入居者が地域の中で明るく楽しく交流を持ちながら穏やかな生活を送ってほしいという熱い思いがあり、職員の資格取得や向上心を励行し、働きやすい職場作りを目指している。職員は、入居者の立場に立って笑顔や生きがいを見い出すケアに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義の理解と活用について、自己評価を全職員で取り組み、改善している。職員を育てる取り組みについて、内外研修計画を充実させ、職員の資格取得に向けての支援も実施し、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を管理者中心で行っていたが、今回は全職員で取り組んでいる。この取り組みにより、職員も自己のケアの振り返りを行う機会となっている。外部評価の改善項目についても検討改善が行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、入居者の状況や活動内容報告・運営状況・研修報告を行っている。出された意見や要望は、話し合いを持ち解決に向けた取り組みが行われている。会議参加者が近所の住民と一緒に来所し、会議の前に入居者とのふれ合いの場を作っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族会行事等での家族の来所時に、意見や要望を出してもらうよう働きかけている。家族へのアンケートも実施し、出された意見や要望は検討し、改善に向けた取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが地区境界線にあり、両地区の町内会に加入している。地域の運動会や文化祭に参加している。運営者は地元住民との交流を大切にして、ホームの中庭を地域に開放し、地域住民がグランドゴルフをしたり、非常時の協力体制も構築されている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の仲間と仲良く暮らします」という入居者の理念と「利用者の家族や住み慣れた地域での関係を保ち安心して安定した暮らしの支援」という職員の理念を独自に作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を大きな字で室内に掲示し、1日2回昼と夕食前に職員と入居者が一緒に理念を唱和している。職員は理念を共有し、日々のケアに反映するように取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	6	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが2つの町内会の地域境界線にあり、両地区の町内会に加入している。地域の運動会や文化祭に入居者と共に参加したり、小学生の体験学習も受け入れている。運営者が地域を大切にしたいとの思いで、地域住民との交流が活発に行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前は自己評価を一部の職員で行っていたが、今回は全職員で取り組み、職員も自己のケアの振り返りを行う機会となった。外部評価の改善項目についても改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者の状況や活動内容の報告をしている。運営状況の話し合いや認知症サポーターの研修報告をしている。会議参加者が近所の住民と一緒に来所し、入居者とのふれ合いの場を作っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは入居者の状況について、情報交換や相談し連携を図っている。運営推進会議に市の職員が出席する事でアドバイスをもらいながら、入居者のサービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りで、写真やメッセージを入れ近況報告をしている。健康状態については、受診時の状況報告もその都度行っている。金銭管理については家族に報告し、面会時にサインをもらっている。遠方の方には、領収書を添付送付し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会行事で、家族の来所時に意見や要望を出してもらうよう働きかけている。ホームから家族へのアンケートを実施し、出された意見は検討し、改善に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員を大切に、処遇改善を図りながら働きやすい環境作りをして、馴染みの関係を重視したケアを行っている。職員紹介を家族にも写真入りで行い、玄関にも張り出している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て外部研修を実施している。全職員を対象に法人内外の研修に参加し伝達講習会も行っている。新人研修では介護の基礎が習得できるようにしている。運営者は資格取得を励行し、職員の資質向上の支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム連絡協議会に加入し、交流会や勉強会に職員が交代で参加し情報交換を行っている。地区のイベントには他グループホームと合同で参加したり、ホームの研修会に交流で参加している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、ホームの見学をしたり、お茶や食事を入居者と一緒しながら、場の雰囲気や環境に馴染めるよう配慮している。体験入所や宿泊を繰り返しながら本人が安心して入居できるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、調理や洗たく物たたみをしたり、本や新聞と一緒に読んだり、日常会話の中から生活の知恵を教わるなど、一緒に過ごし支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での表情や言動から、気持ちを察したり職員間で情報交換しながら、本人の意向を重視した支援を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を聞いたり、スタッフ会議で職員の気づきや意見交換を行いながら、個別に応じた具体的介護計画が作成されている。計画実践に向けて個別の課題項目を表にし、職員が情報共有できるよう工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月または6ヶ月及び状況変化時に実施し、本人・家族・関係スタッフ・医師の情報提供書などで協議し、見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合いながら、病院受診の支援や自宅迄の外出・墓参り・外泊等の支援を行っている。また地域住民の認知症や介護についての相談に応じる等、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族の希望するかかりつけ医となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「健康管理と医療体制に関する規定」を作成しており、入居時に説明し同意書を取っている。重度化した場合、早い段階からかかりつけ医や家族と相談しながら方針の共有を行い、可能な限りホームで暮らしていけるよう支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関する説明を行い、個人情報保護の同意書を取っている。管理者は日頃より自尊心を大切にされた声かけや対応の仕方を職員に指導している。不適切な言葉かけや対応にはその都度指導を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に合わせて、起床や朝食・就寝時間等をずらしたり、気分に合わせて散歩や外出するなど、本人のペースを大切に支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	・取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運営者は季節の野菜を作り、入居者と一緒に収穫したり・調理の下ごしらえ・台ふき・下膳など、職員と一緒にいる。行事や誕生会の食事も楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制にあり、一番風呂希望者が多く順番表を作成し、気持ち良く入れるよう支援している。拒否される入居者には声かけの工夫や見守りで、本人の意向を大切にしながら支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を考慮しながら、落花生の収穫・切り干し大根作り・洗たく物たたみ・貼り絵など、本人の好みや力量に応じて支援している。花見やドライブ・買い物にも出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の裏の600坪の畑と広い芝生の庭は、日常的な散歩コースになっている。牧場や公園にも出かける機会を多くもち、希望に添った外出の支援を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに、職員の見守りと気配りで自由な暮らしを支援している。近隣住民による協力体制の工夫も行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防分団と一緒に年2回避難訓練を実施している。非常ベルは外部に向けて鳴動するようにして、地域住民の協力体制も築いている。居室入口の表札の裏に避難済と表示し工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1,500mlを目安とし、野菜ジュースや健康飲料水・緑茶等で補給している。食事量を記録している。栄養士に献立のアドバイスをもらったり、年1回栄養教室を開催しながら個別に応じた食事形態を工夫している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りは季節の花が植えられ、庭にはベンチやテーブル・椅子が置かれている。共用空間は天井が高く広々として、明るい廊下には加湿器が数台設置されている。トイレも車いす対応ができ、リビングはソファや椅子がありゆっくりくつろげるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッドやタンス・洗面台が設置されている。入居者は花や観葉植物・写真・椅子などを持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。